

令和元年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	
九州から届け！！「福祉」南風プログラム開発 ～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～	
2 研究の概要	
生徒が将来、地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーになることを目指した「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の開発をとおして、社会福祉の発展を担う職業人を育成し、『ジェネラル・ケア・ティーチャー』として福祉力を発信していく。プログラムでは4つのプロジェクト活動（『先進プロジェクト』『連携プロジェクト』『マインド育成プログラム』『発信力プロジェクト』）をとおして、先進的な専門性を高め、豊かな創造性・人間性を身に付け、確かな主体性を育むことで社会福祉の発展を担う職業人を育成する。このような取組を通して、ジェネラリストの視点（高度で総合的な知識・技術と経験、マネジメント能力と改革・改善力）をもつ社会福祉リーダーとしての意識醸成につなげていく。	
3 令和元年度実施規模	福祉科2年生（79名）を対象として実施した
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①災害時における福祉支援を学び、介護福祉士に求められる役割を理解する。 ②介護ロボットについての講義や先進施設への視察等から、その現状と意義について理解する。 ③コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、その有用性について考える。 ④先進的な認知症介護の考え方や方法を理解し、技術を活用できる力をつけることで、介護実習等で介護支援技術の実践力を向上させる。 ⑤「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業の教材として、大分国際車いすマラソンでのボランティア活動の場面を想定して、英語力を向上させる。 <p>■マインド育成プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。 ②認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める。 <p>■発信力プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護実習施設職員を対象とした「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。
第2年次	<p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「避難所体験学習」を通し、介護福祉士として求められる役割について考える。 ②介護ロボット等を活用した「抱え上げない介護技術」を習得し、介護福祉施設で実践することで、介護技術力を向上させる。 ③福祉先進国（デンマーク）を視察することで、高齢者の福祉と自立を支援する政策や、アクティブ・エイジングのプログラム等への理解を深め、これからの社

	<p>会福祉の発展を担う人材としての資質を高める。</p> <p>④「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術での場面を想定して、英語力を向上させ、実践力を高める。</p> <p>⑤医療・福祉英語検定（４級）合格を目指す。</p> <p>■連携プロジェクト</p> <p>①介護実習中に実施する「個別援助計画Ⅰ」を大学生との多職種協働学習で作成することで、ニーズに応じた支援の方法に気づくなど発想力を身につける。</p> <p>②地域の高齢者を対象に校内デイサービスを実施することや、社会福祉協議会等からの講義等を通して、地域の福祉課題について理解することで、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割について考える。</p> <p>■マインド育成プロジェクト</p> <p>①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。</p> <p>②認知症キャラバン・メイトを目指して、認知症サポーター養成講座に参加することで、校内・地域の認知症理解度を高めるための工夫を考える。</p> <p>■発信力プロジェクト</p> <p>①『福祉（しあわせ）』南風プログラム」をまとめ、「福祉教育フェスティバル」を企画・運営する。</p> <p>②『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の映像等による記録を編集することで、介護福祉人材のイメージアップにつながる情報発信を目指して企画力・運営力・伝える力を身につけていく。</p>
第3年次	<p>■先進プロジェクト</p> <p>①介護ロボット等の実践から、介護従事者の負担軽減、介護職場のイメージアップにつながる有用性について研究を深め、発表をする。</p> <p>②「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術の場面を用いて、英語力を向上させ、実践力を高める。</p> <p>③大分国際車いすマラソンでのボランティア活動を通して英語力を活用し、実践力を高める。</p> <p>④医療・福祉英語検定（３級）合格を目指す。</p> <p>⑤大分県内在住の外国人留学生に「福祉の困り」「海外の福祉事情」等を聞き取り、会話力、課題解決力を高める。</p> <p>■連携プロジェクト</p> <p>①介護実習中に実施する「個別援助計画Ⅱ」を大学生との多職種協働学習で作成することで、個別援助に係る課題解決力を身につける。</p> <p>②地域の福祉課題の解決策を考え、地域の居場所づくりを校内で実践することで、介護福祉力を高めるとともに観察力、発想力、課題解決力を身につける。</p> <p>③福祉系高校生との交流学習会で、各校の地域活性化の取組を発表、交流を通して、地域の福祉力を高める資質・能力を身に付け、将来のネットワーク作りを見通した交流活動とする。</p> <p>■マインド育成プロジェクト</p> <p>①死生観・倫理観についての講義、演習から終末期のこころのケアを理解する。</p> <p>②認知症キャラバン・メイトとして、地域の福祉力向上を目指して、認知症予防体操を企画・開発し、校内・地域での認知症サポーター養成講座で普及活動を行う。</p> <p>■発信力プロジェクト</p>

- ①介護実習施設職員を対象とした南高生地域福祉講座Ⅲ「介護支援ロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。
- ②南高生地域福祉講座Ⅱ「福祉防災教室」を企画・運営することで、災害時の福祉支援力を高める。
- ③認知症キャラバン・メイトとして、地域の福祉力向上を目指して、学んできた認知症ケアメソッドを活用して、地域の小中学校や公民館での南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」を企画・運営し、伝える力を身につける。
- ④「おいたの福祉力」を提言するために、各プロジェクトの取組をまとめ、提言集を作成し、連携機関等へ配布する。
- ⑤『福祉（しあわせ）』南風プログラム」をまとめ、「福祉教育フェスティバル」を企画・運営する。
- ⑥『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の映像等による記録を編集することで、介護福祉人材のイメージアップにつながる情報発信を目指して企画力・運営力・伝える力を身につける。

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ） なし

○令和元年度の教育課程の内容 別紙資料

○具体的な研究事項・活動内容

■先進プロジェクト 先進的な専門性（幅広い知識・高度な技能）

1. 災害時の福祉支援力体験学習

①災害時における福祉支援について学ぶ①（熊本学園大学訪問）

目的・内容 : 熊本大地震の際、障がいを持つ方々などすべての被災者を受け入れ、避難所運営されたお話を伺い、実際に現場を見学させていただくことで、介護福祉士として求められる役割について考える。

②災害時における福祉支援について学ぶ②（避難所体験学習）

目的・内容 : 災害時の一般避難所を想定し、生徒が災害弱者や避難所運営者となり体験学習をすることで、支援についての現状を知り、介護福祉士として求められる役割について考える。

2. 介護ロボット等の有用性研究

①「ノーリフティングケア（抱え上げない介護技術）習得」（外部講師による講義）

目的・内容 : ノーリフティングケアの理念や方法を学ぶことで、ノーリフティングケアの有用性について理解を深め、活用した介護技術力を向上させるとともに、介護従事者の負担軽減と利用者の自立支援につなげる取組とする。

②「ノーリフティングケア」「コミュニケーションロボットの活用」を介護福祉施設で実践

目的・内容 : 学校で学んだ「ノーリフティングケア」や「介護ロボット」を介護実習の際に介護福祉施設で活用し、有用性やよりよい活用方法について研究する。

③介護ロボットを活用した介護支援技術について学ぶ（外部講師による講義）

目的・内容 : 移乗サポートロボットや見守りシステムの役割や機能を理解させるとともに、活用方法や介護技術力を向上させ、その有用性についての研究を深める。

3. 認知症ケアメソッドの研究

①認知症予防体操の開発

『運動による認知症予防へ向けた取組～コグニサイズについて』公開講座参加

目的 : 「認知症体操についての講義」を受講し、認知症キャラバン・メイトとして地域の福祉力向上を目指し、認知症予防体操を企画・開発し、校内・地域での認知症サポーター養成講座で普及活動を行う。

4. 北欧の最先端福祉現地学習

目的： ヨーロッパを中心とする福祉先進国の視察をとおして、高齢者の福祉と自立を支援する政策や、「アクティブ・エイジング」のプログラム等への理解を深め、これからの社会福祉の発展を担う人材としての資質を高める取組とする。

日時： 令和元年10月19日（土）～27日（日）（6泊8日+成田前泊）

訪問国： デンマーク 参加者： 福祉科2年生徒4名 引率教員 2名

内容： デンマーク福祉政策についての講義、SOSU授業参加交流
認知症介護ハウス訪問、高齢者住宅訪問、特別支援学校訪問
コミュニケーション・ウェルフェアテクノロジーセンター訪問
エフタスコレ訪問、コペンハーゲンフィールドワーク

5. 外国人支援の「Welfare English」習得学習

①「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業にて「Welfare English」を習得し、医療・福祉英語検定4級合格（NPO 法人医療・福祉英語検定協会）をめざす。

受験者数： 70名（公欠4名 欠席5名） 合格者数： 57名（合格率81.4%）

②「ひるまちにほんご」への参加

目的・内容： 大分県内在住の外国人留学生に、「福祉の困り」や「海外の福祉事情」を聞き取り、外国人留学生との交流を深め、「やさしいにほんご」について考えた。

③大分国際車いすマラソン大会でのボランティア

内容： 大分国際車いすマラソンの選手をサポートするボランティア

■連携プロジェクト豊かな創造性（観察力・発想力・課題解決力）

1. 大分大学福祉健康科学部との多職種協働学習

目的・内容： 介護実習中に実施したアセスメントに基づき、利用者の個別援助計画を大学生との協働学習によって作成することで、利用者のニーズに応じた支援方法に気づくなどの発想力を身に付ける。

2. 地域の福祉課題解決学習

①地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ①（外部講師による講義）

目的・内容： 「地域の居場所づくり」に取り組む上で、先進地である「国東市における地域支え合い活動」について講義していただくことで取り組みを理解し、本校における活動の指針とする。

②地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ②（現地視察）

目的・内容： 国東地区で行われている、住民主体による「地域支えあい活動」のミニデイサービスを視察し、本校で取り組む「地域の福祉課題」解決学習に活かす。

③地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ③（地域でのニーズ調査）

目的・内容： 地域に目を向け、地域の課題に気づくことのできる力をつけるため、健康体操教室に参加し、ニーズ調査を実施する。

3. 福祉系高校との地域福祉活性化交流学習

目的： 佐伯豊南高校福祉科の生徒との交流学習をとおして、地域の福祉力を高める資質・能力を身に付けるとともに、地域の社会福祉リーダーを目指す。

■マインド育成プロジェクト 豊かな人間性（多様性を受容できる力）

1. サーバントリーダーシップ育成セミナー

①サーバントリーダーシップ育成セミナー（外部講師による講義）

目的・内容： サーバントリーダーシップとはどういうことか理解し、介護現場において、円滑なチームの人間関係を築くために介護福祉士に求められる役割について考える。

②介護実習事例研究発表会

目的・内容 : 3年生が福祉を学んだ集大成として「介護実習」の授業で取り組んだ個人研究の発表や外部講師の講演を聞くことにより福祉・介護への意識を高め、学習意欲を喚起する。

2. 認知症キャラバン・メイト養成研修

①認知症キャラバン・メイト養成研修受講

目的・内容 : 認知症サポーター養成講座での講師となり、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに貢献し、理解者を増やす活動に取り組むことを目指して、大分県が開催する認知症キャラバン・メイト養成研修を受講する。

■発信プロジェクト 確かな主体性（企画力・運営力・伝える力）

1. 南高生地域福祉講座

①南高生地域福祉講座「認知症サポーター養成講座」

目的 : 認知症キャラバン・メイトとして地域の福祉力向上を目指して、認知症ケアメソッドを活用して、地域の小中学校や公民館での南高生地域福祉講座「認知症サポーター養成講座」を企画・運営する

受講者 : 判田小学校4年生（118名）
本校福祉科1年（80名）普通科3年（20名）
本校PTA（22名）本校普通科2年（60名）

②南高生地域福祉講座「介護ロボット活用講座」（大分県さんフェア 参加者3308人）

目的・内容 : 一般の方々を対象に最新の介護ロボットの体験コーナーを企画、運営することにより、介護ロボットの有用性について検証する力をつける。また、さんフェア来場者に介護ロボットを体験していただくことで普及につなげ、介護の仕事へのイメージアップにつなげる。

③大分県さんフェアにてSPHの取り組みを発表

目的・内容 : これまでの本校福祉科の取組について、他校の生徒や一般の方々に発表することで、知ってもらう機会とする。

④福祉教育フェスティバル

目的 : 「先進プロジェクト」「連携プロジェクト」「マインド育成プロジェクト」で身に付けた力を「発信力プロジェクト」の一つである「SPH 中間報告会」を実施し、企画力、運営力、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育成する。また、関係施設や地域の方々に本校福祉科の取組を知って頂く機会とする。

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

1. 「南高生地域福祉講座」の取組

○令和元年11月23日（土）別府ビーコンプラザで行われた「第27回大分県産業教育フェア（第30回全国産業教育フェア大分大会プレ大会）」において、「介護ロボット活用講座」、生徒による「SPH研究発表」を実施した。大会参加者は、高校生、小中学生、保護者等で約3300名であった。

2. 「発信力プロジェクト」の取組

○各広告媒体等を活用して研究成果を発信した。

- (1) 福祉科だよりの発行 : 8号発行
- (2) 学校ホームページによるSPH研究の取組 : 10回更新
- (3) 北欧の最先端福祉現地学習をInstagramにて発信
- (4) Youtube（大分県教育庁チャンネル）にて発信 : 773回視聴（1月26日現在）
- (5) 新聞・テレビ（ニュース等）報道回数 : 11回（H30年度 : 6回）

○実施による効果とその評価（文科省共通的な評価指標による調査結果平均値～各事業後に実施）

1. 本時の授業の積極的に取り組むことができ、福祉の勉強をさらに頑張ろうと思った

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
平成30年度	67.9%	30.0%	2.1%	0.0%
令和元年度	66.6%	32.2%	1.0%	0.1%

◎他の指標と比べて「どちらかと言えば思わない」が最も低く、ほぼ全員の生徒が福祉に対する学習意欲は高まっている。

2. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
平成30年度	48.2%	48.2%	2.7%	0.9%
令和元年度	53.6%	43.7%	2.5%	0.1%

◎昨年度と比べて「思う」が増加している。自分で考え、積極的に行動することが求められる地域の福祉課題や災害時の福祉支援力等の学習活動が増えたためと考えられる。

3. 今回の学習を通じて、新たな知識・技術を習得することができ自分のスキルアップにつながった

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
平成30年度	68.5%	30.4%	1.1%	0.0%
令和元年度	68.8%	29.7%	1.3%	0.1%

◎ほぼ全員の生徒が自己の成長を実感できている。ノーリフティングケアや福祉先進国視察等の取組から、幅広い知識や高度な技能などを学ぶことができた結果であると考えられる。

4 自分の将来の職業に対する意識が高まった

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
平成30年度	33.1%	47.6%	16.1%	3.2%
令和元年度	44.5%	44.4%	8.8%	2.3%

◎昨年度と比較すると「思う」は増加している。サーバントリーダーシップセミナー等の取組から、自分の将来の姿をイメージすることができ、その学びを今後どのように活かしたいかと考える生徒は増えている。しかし、他の指標と比べると「思わない」生徒の割合は依然として高い。来年度は、生徒の SPH 研究事業3年間の学びを社会福祉リーダーとしての意欲につなげられるプログラムの充実を図りたい。

○実施上の問題点と今後の課題

- ・昨年度の課題であった「取組の成果や生徒の成長・変化を客観的に評価する指標」を今年度は整理することができた。来年度は「地域等外部からの評価指標」を整理することで、地域との連携活性化を図り、継続的な取組へとつなげていきたい。
- ・これまでの2年間で「先進・連携・マインド育成プロジェクト」は計画通り実施することができ、生徒の満足度も98%を上回る結果となっている。今後は生徒の将来の職業意識を高めるために「発信力プログラム」において企画力、運営力、伝える力の育成を目指して、生徒が主体的に研究活動に取り組むことができるよう工夫・改善を図っていきたい。
- ・SPH 研究事業最終年度の課題は「介護福祉人材の質の向上と量の確保」である。そのためには、SPH 研究事業の取組の成果を年間指導計画等に組み込むなどして、福祉教育の指導の工夫・改善を図り福祉人材の質の向上へとつなげたい。介護福祉人材の量の確保については、「発信プログラム」における「福祉教育フェスティバル」の実施、「おおいたの福祉力提言」活動等を通して小中学生や地域等へ福祉の魅力発信を充実させ、継続的な取組としていきたい。